

石見銀山の石造アーチ橋を探る（２）

—羅漢町石造アーチ橋—

高橋 悟

島根県にある石造アーチ橋の多くが石見銀山に存在する事から「石見銀山の石造アーチ橋を探る」というテーマのもと、これまで江戸時代に建設された五百羅漢石造アーチ橋３橋について検討してきた。

石見銀山の五百羅漢石造アーチ橋の技術は、江戸時代、多くの石造アーチ橋が建設された九州から導入されたものではなく、中国から直接江戸に入った江戸小石川後楽園の円月橋の架橋技術を真似て建設されたものであることが知られた。そしてこの技術は九州に多く見られる頑丈で、安全、風化に強い実用的石橋建設技術と異なり、大名の庭園文化に基づく技術であること、石見銀山が天領支配であった事から、石見銀山は江戸と想像以上に密接な交流が見られたことをこれまで明らかにしてきた。

続いて、明治期の建設と言われ、五百羅漢石造アーチ橋に比べておよそ150年も時代の新しい図－1に示す大森の羅漢町にある羅漢町石造アーチ橋について五百羅漢石造アーチ橋同様にその建設の背景、及び特徴などの視点から検討を加えようとした。そこで、まず、石見銀山の石造アーチ橋を探る（1）で明らかにした点、羅漢町石造アーチ橋が建設された明治時代以後の日本の石造アーチ橋建設の流れを基に、羅漢町石造アーチ橋の特性、さらには、なぜ羅漢町石造アーチ橋は江戸時代から時代を置いた明治時代にはいり作られたのか、羅漢町石造アーチ橋の様な石造アーチ橋がなぜ石見銀山に作られたのかなどの点から羅漢町石造アーチ橋を検討した。その結果次の事が明らかになった。

（1）石見銀山の大森町には2種類の石造アーチ橋がある。そのうち、五百羅漢石造アーチ橋は大名庭園中の橋に基づく技術で架けられた橋であり、一方、羅漢町石造アーチ橋は九州などの深い溪谷を形成する風土の地域において頑丈で、安全、風化に強い実用的な目的のために架けられた橋と同類の橋と判断される。

（2）明治時代大森町は石見東部の政治、経済の中心地であった事から、当時の政府、県の施策における幹線道路改修の一環で羅漢町石造アーチ橋は建設された。

(3) 大森の様な鉱山地域は石造アーチ橋を建設する条件（深い溪谷の溪流河川、石切り場、石工など）がそろっていることから、羅漢町石造アーチ橋は必然的に頑丈で、安全、風化に強い実用的な石造アーチ形式の橋となった。

(4) 石見銀山の羅漢町の様な鉱山町は石造アーチ橋が多い。その理由として①、鉱山町の多くが深い山中にあり、急峻地形の所が多く溪流河川が多い、②岩盤を砕きそして坑道を掘る、石の文化が醸成されている、③明治維新により鉱山開発に明治政府をはじめとする新しい技術導入の息吹が見られた、④石造アーチ橋を建設するための石材を供給する石切り場が近くに多くある、⑤石を加工する石工集団の存在などが挙げられる。

石見銀山の石造アーチ橋を探ると言う視点から羅漢町石造アーチ橋を見てきたが、時代が江戸時代から明治時代が変わることにより地方においても多くの変革が押し寄せていたことが知られ、明治維新の様な時代の返還点においては特に注意深く歴史を見る必要があることが改めて認識された。

なお、内容の細部について興味のある方は現在投稿中の「郷土石見」の内容をご期待ください。

図-1 羅漢町石造アーチ橋

